

がん治療と漢方薬について

はじめに



抗がん剤は、がん細胞だけでなく骨髄細胞や免疫組織や消化管粘膜など細胞分裂の盛んな組織にもダメージを与えるため、免疫力の低下や食欲不振や吐き気など様々な副作用を引き起こします。これらの副作用で、辛い思いをされている方は多くおられると思います。

日本では、臨床的に漢方薬が「抗がん剤治療による副作用対策」に用いられることが多く、がん治療においても有用であることが報告されています。

そこで今回は、がん治療の中で使われる漢方薬を

- 1 抗がん剤治療で起こる副作用症状の緩和に使われるもの
- 2 体力の維持に使われるもの
- 3 症状の改善・予防に使われるもの

の3つのグループに分けて紹介します。

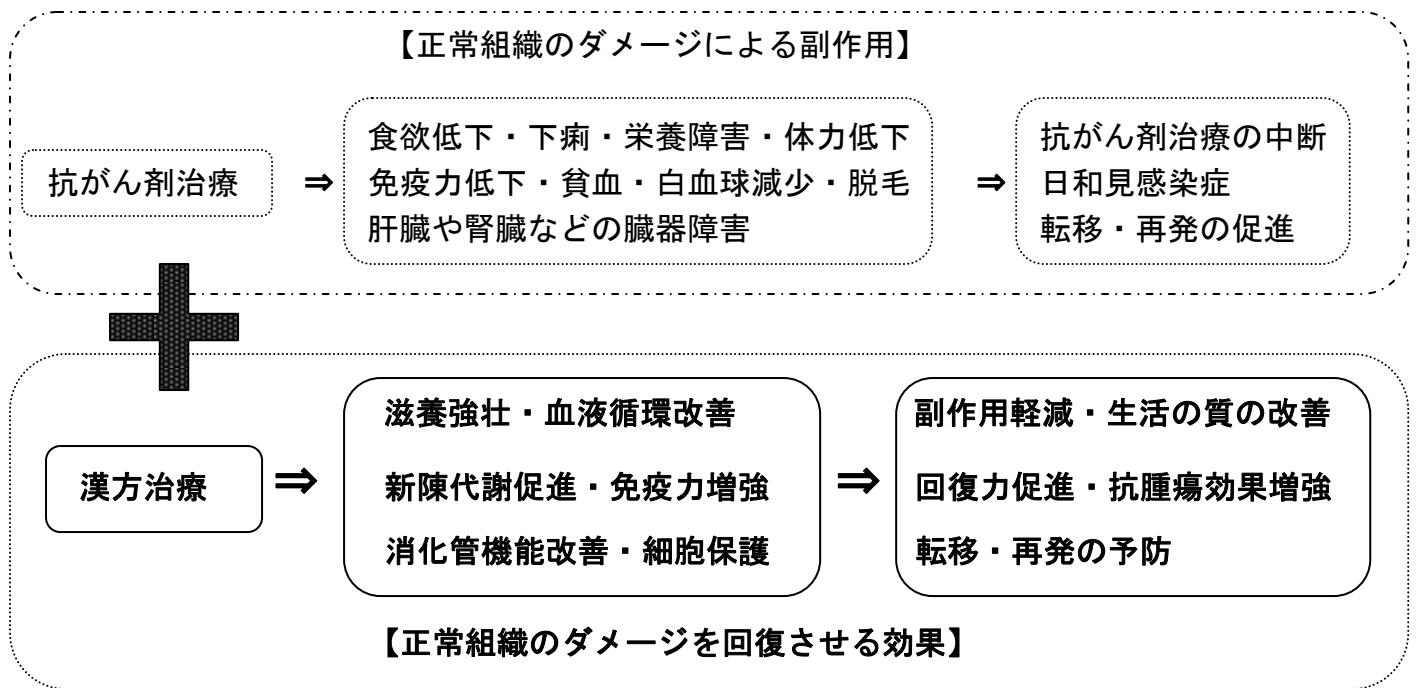
(ただし、当院で扱っていない薬も含まれます。)



1. 抗がん剤治療で起こる副作用症状の緩和に使われる漢方薬

嘔気・嘔吐	：	半夏瀉心湯	六君子湯		
下痢	：	五苓散	半夏瀉心湯		
		※起こしやすい薬剤：カプト(イリリタン)・5-FU(フルオウラシル)等			
便秘	：	大建中湯	麻子仁丸		
		※起こしやすい薬剤：ハルビン(ビノルビソ)・オコピン(ビソクリスチン)等			
倦怠感	：	十全大補湯	補中益気湯		
食欲不振	：	十全大補湯	補中益気湯	六君子湯	
口内炎・舌炎	：	十全大補湯	小柴胡湯	半夏瀉心湯	
口渇・口乾	：	麦門冬湯	八味地黄丸	白虎加人参湯	
口の苦み	：	十全大補湯	小柴胡湯	半夏瀉心湯	六君子湯
こむら返り	：	芍薬甘草湯			
骨髄機能の低下	：	十全大補湯	補中益気湯		
筋肉痛・関節痛	：	芍薬甘草湯			
吃逆(しゃっくり)	：	芍薬甘草湯			
末梢神経障害(手足のしびれ・痛みなど)	：	牛車腎気丸			

※起こしやすい薬剤：タキソール(パクリタキセル)・エルゾラット(オキサリプラチン)・オコピン(ビソクリスチン)等



2. 体力の維持に使われる漢方薬

十全大補湯 補中益気湯 人参養栄湯

3. 症状の改善・予防に使われる漢方薬

- 大建中湯 : 便通をよくします。また腸閉塞（イレウス）を予防します。
 麦門冬湯 : 肺がん術後の遷延性咳嗽を改善します。
 桂枝茯苓丸 : 内分泌療法（リュプリン・ゾラテックス）によるのぼせを改善します。
 当帰芍薬散・当帰四逆呉茱萸生姜湯 : 冷えを改善し血液の流れをよくします。
 加味逍遙散・半夏厚朴湯 : 不安感を改善します。



漢方薬 Q&A

Q. 漢方薬には副作用がないと聞いたことがありますか？

A. それは**誤解**です！！



漢方薬も「薬」であり、薬である以上副作用はつきものです。体質や症状に合わない使い方をする、発疹などの過敏症や稀ですがアレルギー性の肝炎や間質性肺炎、膀胱炎といった副作用が起こることもあります。また、他の医薬品との相互作用もあります。特に抗がん剤との併用には十分な注意が必要です。自己判断や家族や知人からの勧めだけで服用することは避けて下さい。

主治医と相談し、飲み方をきちんと守り正しく服用することが大切です。

Q. 漢方薬の飲み方を教えてください。

A. 食後でも問題はありませんが、できれば食事の1時間前や食間（食後2時間）に飲んで下さい。また、味や匂いが気になる方は、ぬるま湯で飲むか熱いお湯に溶かすことをお勧めします。